

渡辺精一先生退職記念号に寄せて

経済学部長 大 林 弘 道

渡辺精一先生は、2001（平成 13）年 3 月 31 日付けをもって本学を定年ご退職されました。

先生は、1945（昭和 20）年、海軍兵学校の最後の入校生徒としての終戦を迎えられました。そして、同年 9 月に群馬県立高崎中学校（旧制）に編入学され、48（昭和 23）年に同校を卒業されました。その後、御父上の御逝去により一家を支えるべく約 8 年間自営業に就かれました。その間、52（昭和 27）年から都留重人一橋大学教授が主宰する同大学卒業生によるゼミナールに参加され、55（昭和 30）年には大学入学資格検定試験の合格を経て、翌 56（昭和 31）年中央大学法学部法律学科公法学専攻に入学され、60（昭和 35）年同大学を卒業されました。また、同大学入学直前より日本学術会議専門委員を勤められ、さらに、日本フェビアン研究所研究員に就任し、本格的な研究生活を開始されました。その後、財団法人東京都政調査会研究員を経て、71（昭和 46）年に沖縄大学助教授に就任され、沖縄国際大学を経て、76（昭和 51）年に本学経済学部助教授に就任され、79（昭和 54）年に同教授に昇任されました。本学在職中は、評議会評議員、経済貿易研究所長、教務部長、理事等の多くの役職に就任され、95（平成 7）年から 1 期 2 年間経済学部長を務められ、本学の発展に貢献されました。

先生は本学経済学部で地方財政論の講義を担当されたほか、ゼミナールなどをも担当されました。また、本学法学部自治行政学科発足以来地方財政論担当の兼任教授となっておりました。

先生のご研究は、一貫して地方財政の研究にあります。先生は現代日本における地方財政制度を財源・経費の両面および構造・運営の両面から批判的に検討し、地方自治の確立、自治財政権の体系化という視点を確固として堅持され研究を進められました。また、先生は早くから都市問題、環境問題、住宅問題、地方行政について「エコノミスト」「ジュリスト」「経済評論」「朝日ジャーナル」などで論陣を張られました。さらに、オーストラリアでの在外研究の成果として同国の財政の中央集権的性格を明らかにし、新たな地方財政の問題を提起されました。

このような先生のご研究は今日地方財政の問題が深刻かつ明白になるに及んで先見性を示すものであると同時にその成果はさらに研究者、地方自治体関係者に引き継がれていくものと思われます。また、先生は単に研究室に留まることなく、東京都をはじめ各地の審議会等の委員を務められ、また、自治体や市民に対して多くの講演をし、研究成果の社会還元に努力されました。

先生の教授会における的確な発言は出席者の誰をも納得させました。また、日頃厳しさとともにスマートさをもって大学で過ごされていましたが、それはもっぱら海軍兵学校仕込みだと評価されておりました。そして、定年を機にきっぱりと大学の講義などからは離れられましたが、今

も後輩教員や職員との楽しい交流が続いているのも先生のお人柄のゆえであると察します。これからも先生が健康に恵まれ、益々お元気でご研究を続けられてご活躍下さいますように心からお祈り申し上げます。